

「酪農後継者として」

佐賀県立佐賀農業高等学校
生産科学科 1年 古川 大地

僕の家は、佐賀県の中央部、孔子の里で有名な多久市東多久町にあります。祖父が昭和34年に9頭から酪農を始め、父が就農して規模拡大し、現在では、経産牛29頭、育成牛11頭、子牛12頭、それに和牛4頭の計56頭を飼う専業農家です。牛の世話や搾乳は主に両親と祖母でやっていますが、僕も、中学生の頃は、毎日、朝と夕方に牛の世話を手伝っていました。今は、野球部の練習で行けない事が多いですが、行ける時には、必ず牛小屋に行き餌をやったり世話をしたりしています。

昨年、僕が中学3年の時、父と一緒に、酪農ツアーでカナダに1週間、酪農研修に行きました。そこで、カナダの乳牛共進会を見ました。カナダの乳牛は、同じホルスタイン種でも日本の牛と違い体格がとてよかったです。その後、8戸の牧場視察をしました。一番驚いたことは、トラクターの大きさです。僕を家のトラクターの4倍くらいあってとてもびっくりしました。やっぱりカナダは国土が広いだけあって、経営規模がかなり大きいなあと改めて感じました。この研修を終えて、「僕は、絶対にお父さんの後継者として、りっぱな酪農家になりたい。」と強く思いました。

そこで、迷うことなく、佐賀農業高校の生産科学科を志望し、入学することができました。高校では、農業の基礎・基本をしっかり学習しようと思っています。2・3年生では、特に、畜産関係の科目を選択し牛をはじめいろいろな動物のことについてもっと学習したいです。

今年の3月には、乳牛共進会である「第8回オール九州B&Wショウ」が熊本県で開催され、僕の家からは2頭を出品しました。前日から泊まり込みで牛の毛刈りなどをし、そのうち、育成牛(7部)を僕がリードしました。家でも、牛を洗ったり手入れをしたり、また、調教したりして、大変だったのですが、とても楽しくできました。初めて、共進会で牛を引いてみると、とても力が入り、審査員に引き方を注意され、腕がきつく、痛くなりました。僕がリードした牛は、優秀賞3席に入賞しましたが、リードの仕方が未熟だったのか、「思ったより結果がよくなかった。」と父から言われました。今年の11月に九連共、また来年の10月に日本ホルスタイン共進会が開催されるので、今から牛の管理をしっかりし、リードの仕方も練習して、もっと上位を目指せるように頑張りたいです。

また、酪農はけがをしやすい仕事で、とても難しい仕事です。牛が栄養不足になったりして、死んでしまったりすると困るので、牛の管理をきちんとしなければいけません。牛が、今どんな調子なのか、まだ僕には分からないので、今は父に聞いたりして、仕事をしています。はやく自分で牛の体調を分かるようになりたいです。

さて、我が家の酪農経営において、今二つの課題に取り組んでいます。その一つは飼料

コストの削減です。牛のえさの値上がりにより、今とても経営的に不安な状況なので、夏作で部落の集団減反を引き受けて、ソルゴーを5ha、冬作はイタリアンライグラスを5.5ha作り、飼料コストの削減に努めています。

二つめは、牛の糞尿の有効利用です。牛を56頭も飼っていると、1日で2t車1台分の糞尿がたまるので、去年は、堆肥処理機械を導入しました。2日に1回攪拌して良質の堆肥を作っています。その堆肥で田畑の土壌改良をして自家栽培で質のいい飼料を作り、循環型の酪農を行っています。さらに、ここ4,5年は、一切化学肥料を使わずに、有機肥料で稲作を行い、自主流通米として販売まで行っています。

このように、父を中心に酪農経営を行っていますが、僕が父の後継者として、我が家の酪農経営を行うに当たって、次の三点について取り組みたいと思っています。

第一に、安全、安心な牛乳の提供です。最近、食品偽装問題がマスコミなどでよく取り上げられ、食の安全、安心が求められる時代へと変わっています。僕の家で搾る牛乳が、安全、安心な牛乳であることを消費者へ伝えるため、牛に与えた飼料やその飼料の安全性などを公開できるトレーサビリティシステムを構築し、「古川さんちの牛乳はおいしいし、安心して飲める。」といってもらえるようにしたいと思います。

第二に、環境に配慮した酪農経営です。去年に導入した堆肥処理機械で堆肥を混ぜるときに発生する熱やガスをエネルギー源として利用し、自家発電できないだろうかと考えています。最近では、特に環境に配慮した取り組みが大切だと思っているからです。このことは、まだ分からないことが多いですが、バイオマスということについて今から学習していきたいと思っています。

そして、第三として、農家で生産したものを、付加価値をつけ、農家で販売することです。生産から販売まで一貫して行うことでより有利に農産物を販売できると思うからです。実際に、畜産農家が農家レストランを経営したり、ハムや乳製品をつくり、販売しているところがあると聞いています。是非、高校の時に、このような先進の酪農農家へ研修にいき、我が家経営の参考にしたいと考えています。僕の家は、祖父母、両親、僕、それに妹3人の8人家族です。家族全員で、分担して仕事を行えば、飼料の栽培、牛の飼育、搾乳、乳製品加工、販売と少しずつ事業を拡大することもできると思います。また、多久は、多久聖廟などの観光地もあり、いろいろなイベント等にも積極的に参加して、我が家の生産物のPRをしたいと思っています。

このように酪農経営へのたくさんの夢がありますが、まだ高校生で、考えが甘いところもあるかもしれませんが、何事にも積極的に取り組み、いろいろ勉強し、経験していきたいと思っています。

本校卒業後は、酪農の本場である北海道の農業大学校へ進学し、さらに専門的な知識を深め、牛の血統などについても勉強してみたいです。そして、父に負けない立派な酪農家になることを目標にこれからも頑張ります。
